



脇本海岸 渚だより

NPO法人
脇本海岸ウミガメ・シロチドリ会
第6号（期間：2023年4～6月）

「淡路島ちどり隊」隊長によるシロチドリ講演会（4月15日）

兵庫県淡路島でシロチドリやコチドリなどの保護活動を行っている「淡路島ちどり隊」の隊長である立田彩菜さんを講師にお呼びして講演会を開催しました。もと北海道TV局のアナウンサーや番組編集長をされた方で、プレゼン資料も話も分かりやすく、NPO会員、市役所関係者、地域住民など30名が熱心に聞き入り、多くの質問がありました。淡路島でも脇本海岸と同様にシロチドリの個体数が減ってきており、原因は砂浜の減少や来浜者の増加、カラスなどの天敵の増加であることも同じです。官民一体となった取り組みと、事業者の理解と地域の熱心な保護活動が大事とのこと、今後も情報交換して保護活動を進めます。



脇本公民館の会議室で講演



海岸の視察（立田さん、NPO石澤）

ウミガメ関連

例年より早くウミガメ初上陸（5月26日）

近年では6月に初上陸していたが、今年は昨年より8日早い5月26日に初上陸があり、産卵も確認されました。同じカメと思われる2回目の産卵が6月17日にも確認されたが、別個体の上陸は6月末までに確認されていません。まだ産卵シーズンは終わっておらず、8月初旬までは続くが、これまでの状況より今シーズンの上陸・産卵は低調な可能性が高くなっています。（調査担当；大川内、石澤、本脇）

宮崎大学野生動物研究会(Wila)メンバー来海（6月24日）

九州ウミガメ連絡会で会ったのを機に Wila 代表の豊崎さんと部員の西尾さん、廣瀬さん（全員獣医学部）が脇本海岸へ視察に来て当NPO法人の保護活動を勉強されました。宮崎県全体で毎年1000回程の上陸があり、当研究会では2つの砂浜（合計約4Km 長）で約120回の上陸の状況調査を行っています。脇本海岸同様に海岸の光害が大きな問題とのことでした。



シロチドリ関連



春先には17羽のシロチドリを確認したが、3月末以降の産卵シーズンに姿が減っていき6月末には数羽しか確認できなくなりました。昨年は20ヵ所で合計50個の産卵でしたが、今シーズンもほぼ終わりである6月末時点で累計7か所（計21個の卵）しか確認できていません。原因不明の抱卵放棄が相次ぎ卵は腐ってしまい、孵化が確認できたのは今のところ写真の1か所のみです。そのヒナも2日後には姿が見えなくなり天敵に襲われたものと思われます。7か所目もキツネの襲来を度々受けて、恐れてしまったのか抱卵放棄した模様です。

海岸の草花特集（春から初夏）

脇本海岸は絶滅危惧種の動物だけでなく多くの植物も生息する海岸です。JR 豪華列車ななつ星のお客様を海岸に案内すると、海岸の草花に目を止められます。私たちにとっては子供の頃から当たり前に存在している草花も実は珍しく、美しいと思われるのだと知らされました。これをきっかけに海岸の草花を紹介する看板を遊歩道脇に設置しました。ここでは一部を紹介しますが、これら以外にも多くの草花がありますので、海岸遊歩道を歩く際に楽しんでもらえればと思います。

ハマヒルガオ
海岸全体に分布



ハマユウ（ハマオモト）
種子はコルク質、海水で運ばれる



コマツヨイグサ
海岸全体に分布



マツバギク
岩船海岸に多い



ハマボウフウ
若葉は食用（採取禁止）



コウボウムギ
弘法大師の筆に因む名



ハマアザミ
県指定絶滅危惧種



オカヒジキ
県の準絶滅危惧種



長命草
海岸全体に点在



トベラ
防風林内に点在



シャリンバイ
海岸に面した防風林に多い



マサキ
山野種に比べ葉が厚い

